



17 秋草図衝立 呉春

一基

絹本着色 江戸時代(十八〜十九世紀)
本紙二二三・〇×八三・二

呉春(一七五二〜一八一二)も応挙に影響を受けた画師である。京の金座年寄役・松村匡程の長男として生まれた呉春は、父の跡をついで金座の務めに携わる一方で、与謝蕪村について俳諧や画を学び、松村月溪の名で活躍していた。その後、円山応挙の写生画様式に影響を受け、蕪村の南画様式とを消化させた彼独自の様式を確立し、四条派と呼ばれる一門を育てた。

本図は、絹地全面に金泥を引き、画面の上下に砂子の霞を施す、装飾性の高い作品である。朝顔・女郎花・蚊帳吊草・桔梗・薄・露草・千日紅の七種類の秋草が、顔料を中心とした美しい色彩と、柔らかな描線による表情との融合によって、しっかりと上品な情趣を漂わせている。若冲や応挙とは異なる感性と表現である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections